

第二十一回企業活性化研究分科会

〈第二十一回 2009年5月16日(土) 時間:13:30~17:00 於:専修大学(神田校舎)〉

1.参加者:山本、井端、大野、木村、古山、大柳、星野、渡邊、横山、小林、菅原、宮川、酒井、杉本

2.テーマ:企業活性化に関する研究

3.発表内容

テーマ:『*継続企業の前提に関する分析 (TYPE II)*』

- ・報告者:井端 和男
- ・配布資料:1枚
- ・報告内容の要旨

本報告は株式会社白石の継続企業の前提について分析したものである。同社は自己資本比率が低く、減収傾向が続いている。さらに、各種利益率が低く、赤字の期間が多いことから、財務体質が劣悪であることは明らかである。そして07年10月にオリエンタル建設株式会社と合併し、オリエンタル白石株式会社となった。しかし、その13ヶ月後の08年11月に更生手続き開始の申し立てを行い、倒産に至った。倒産の原因としては銀行からの融資が受けられなかったことなどが考えられる。

- ・報告者:大柳 康司
- ・配布資料:8枚
- ・報告内容の要旨

本報告は勝村建設株式会社の継続企業の前提について分析したものである。同社は過去2度の民事再生法の適用申請をしている企業である。継続企業の前提に関する注記は、05年3月期のみである。1度目の申請は、99年3月期以降業績が低迷しており、資金繰りの悪化により、05年に民事再生法の適用申請を行った。2度目の倒産は、新設分割によって現勝村建設が設立されるが、業績は低迷している。資金繰りを要請したスポンサー企業から融資を見送られたことで2度目の民事再生法の適用申請を行った。

(文責:杉本 敦彦)